

平成25年度 東大阪大学柏原高等学校 評価報告書

1. めざす学校像

建学の精神を堅持しつつ、進学をめざす生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに教職員一丸となって取り組む。

2. 学校教育自己診断における結果と分析（平成25年11月実施分）

本校の学校教育に対する20項目の各設問について、Aあてはまる・Bどちらかといえばあてはまる・Cどちらかといえばあてはまらない・Dあてはまらない、の4段階での回答を用意した。AとBの和を肯定的回答、CとDの和を否定的回答と判断すると、実施対象者である生徒と保護者の回答結果は次のように分析できる。

20項目全体の生徒の評価では肯定的回答が若干上回るものの、項目ごとに見れば否定的回答が過半数を超えるもの(昨年度と比べればその程度は改善されてはいるが)もあるのが現状である。

「授業は丁寧で分かりやすい」について否定的な者が半数を超えているが、その反面「先生は授業の工夫をしている」を肯定的にとらえているものも過半数いることから、教員のさらなる創意工夫に期待する生徒像が窺える。「学校生活は充実している」「自分の学力を伸ばそうと努力している」の項目では大半の生徒が前向きに高校生活を送っている様子が確認できた。また、評価・テストについては7割近くの生徒が満足していることが出来るが、「相談や悩みについて話しやすい」とともに昨年度よりも肯定感が減退しているのは気がかりである。「部活動は活発に行われている」と感じている反面、部活に参加している生徒は減少傾向にある。「生徒会活動」や「学校行事」に対する不満は、創立50周年記念行事や土曜計画の見直しにより大幅に改善された。生徒会や学校行事は高校生活の充実度を計る重要な指標のひとつなので、今後も生徒の興味関心を引く企画が必要である。

保護者については全項目で8割前後の肯定的回答を得ている。Aだけで過半数を超えた項目は6つ(昨年度は3つ)である。「教員は学力向上を図るために、指導の工夫をしている」「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」については2割強の否定的回答があり、これらは早急に改善の必要がある。また、7項目でDの回答が限りなく0%に近づき、本校の教育活動に対して多大な信頼が得られていると判断できる。しかし、そのことに慢心することなく、全項目で保護者の支持が得られるよう不断の努力が期待されていると心得たい。

教員には40項目の設問を用意し、その一部は生徒・保護者の設問とリンクするように設定した。「各時の目標を明確にして授業に臨んでいる」「授業速度・学習内容は適切である」「生徒の理解度を確認しようとしている」など、教員としては当たり前の設問には非常に高い自己評価(Aだけで過半数超)がなされた。一転、「プリントなどの補助教材をよく利用している」ではAの回答が3割弱に激減、生徒の「授業」に対する低評価を証明する形となった。また、いくつかの項目では相変わらず生徒とのギャップがみられ、この意識の差が今後解決すべき問題であることは間違いない。「情報機器や情報ネットワーク」「国際理解教育や異文化理解教育」「地域に開かれた学校づくり」など、いくつかは改革半ばの課題である。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

重点目標	具体的な取り組み内容	取り組み内容の自己評価
教科指導の充実	① 教科部会等の定期的開催	*部内での自主的な研修活動については、やや不十分であるが、定期的な打ち合わせ、指導方法の確認については、実施できた。生徒のやる気が出る授業、分かりやすい授業の実施については、なお努力が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ② 生徒の実態に応じたカリキュラム編成の研究(カリプロ26) ③ 授業時数の確保 ④ 少人数指導の導入 	<p>*26年度からの導入をめざし、学校設定科目の内容等、若干の変更を加えて策定した。</p> <p>*今年度は学校行事の精選や考査日数の削減を進め、例年以上に時数確保に努めたが、さらなる改善が必要である。</p> <p>*選択科目の導入や少人数学級編成の一部導入により、部分的ではあるが取り入れることができ、効果を上げている。</p>
生徒指導の徹底と生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 凡事徹底を図るための見守り活動の強化 ② 校則の見直しと各種規則の厳守 ③ 生徒会活動の基盤となる学級活動の活性化を図る。 	<p>*生徒評価、保護者評価からも効果を上げていることが伺える。</p> <p>*不必要な校則、生徒の実態にそぐわない校則については、一定の改善が図れた。規則遵守については今後とも指導の手を緩めず徹底していく。</p> <p>*文化祭では、例年以上に学級活動が活発となったが、生徒評価からは否定的評価が半数以上を占めている。今後の課題である。</p>
生徒支援・相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① きめの細かい実態把握と相談活動の充実に努め、不登校生、中退生の減少をめざす。 ② 専門家によるカウンセリングの実施 	<p>*生徒サポート部を組織し、きめの細かい実態把握と家庭訪問の実施、保護者との連携を図ったが、目立った効果を上げるには至っていない。</p> <p>*週に1回程度ではあるが、相談員を配置することができ、不登校生への面談や保護者相談等で活用できた。</p>
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 実践的キャリア教育の推進 ② 有名私立大学への進学者増 ③ 進学のための補習授業の充実 	<p>*厳しい雇用環境の中ではあるが、今年度も就職率100%に向けて取り組んでいる。外部人材を多数活用して進路指導を展開している。進路指導は、生徒・保護者評価からみても好評であるが、保護者相談については、きめ細やかさも必要である。</p> <p>*24年度卒業生の大学進学については、ほぼ例年並みの成績をあげた。</p> <p>*今年も精力的に実施している。</p>
人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期的な研修(講演会を含む)の実施 ② 個に応じた指導の推進 ③ いじめ防止に向けての実践 	<p>*全体研修を3回、初任者、若年教職員対象の研修が3回(うち現地研修1回)を計画し、計画通り進行中である。</p> <p>*具体的な事例研修等を実施し、個々の生徒に関わっている。</p> <p>*学校行事や全校集会の実施日等や学校だより等を活用して「いじめ」防止を呼び掛けている。全校生徒対象の人権集会も実施したが生徒評価はそう高くはない。更なる実践が必要である。</p>
強化クラブの競技実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 土曜日の活動を原則確保 ② 競技実績の向上とボランティア活動等の推進 	<p>*コースの特色を生かした取り組みとして好評である。</p> <p>*全般的に評価が高く、スポーツ柏原は健在である。バドミントン部は全国大会でも活躍する等、実績をあげた。硬式野球部、日本拳法部、空手道部、陸上競技部は、あと一歩であった。サッカー部、ラグビー部も健闘した。今年度は、柔道部の活躍が光った。</p>